資料１

最近のユネスコ関係の動きについて
（文部科学省報告資料）

unesco
Japanese
National Commission
日本ユネスコ国内委員会

１．第224回ユネスコ執行委員会 ①

結果概要

〇第224回ユネスコ執行委員会について

- 2026年４月８日～23日にパリのユネスコ本部で開催された。
- 日本からは、北山国際統括官（当時）、加納ユネスコ特命全権大使ほかが政府代表として出席した。

〇エルアナーニー事務局長の開会演説（概要）

- 加盟国との信頼関係に基づく対話と協力を基盤とした組織運営を進める。
- 教育へのアクセス拡大、オープンサイエンスの推進、AIの適正な活用、水資源管理、気候変動対策、文化遺産・文化多様性の保護、表現の自由の促進などを重点分野として推進する。
- 引き続きアフリカとジェンダー平等を横断的な優先事項、ユースとSIDSを優先グループに位置付ける。
- ユネスコは人道支援機関ではないが、教育・科学・文化を通じて紛争・災害対応における独自の役割を果たす。
- 厳しい財政状況だが、今後も中立的かつ専門的な立場から、教育・科学・文化を通じた平和と持続可能な発展の実現を目指す。

１．第224回ユネスコ執行委員会 ②

結果概要

〇教育関係の主な議題

（１）SDG4教育2030：グローバルレベル・地域レベルでの調整、モニタリング及び支援

- 新たにポスト2030教育ユース・アジェンダの策定プロセスに対して23万米ドルを拠出して支援すること、その一環として2026年10月28日、29日に東京の国連大学にて「ポスト2030教育に関するユース・アジェンダ」起草会議を開催する予定であり世界中のユースの参画を期待していること等を発言した。

〇科学関係の主な議題

（１）新規ユネスコ世界ジオパークの認定

- 我が国から申請していた山口県「Mine秋吉台」がユネスコ世界ジオパークに認定され、認定総数は241地域（51か国）、我が国のユネスコ世界ジオパークは11か所となった。

（２）ユネスコ科学賞の創設・更新

- 2026～30年の５年間を対象とした、「未来研究分野における科学的進歩」に関する新たなUNESCO賞が創設された。また、ロレアル・ユネスコ女性科学者賞をさらに６年間継続することが決定された。

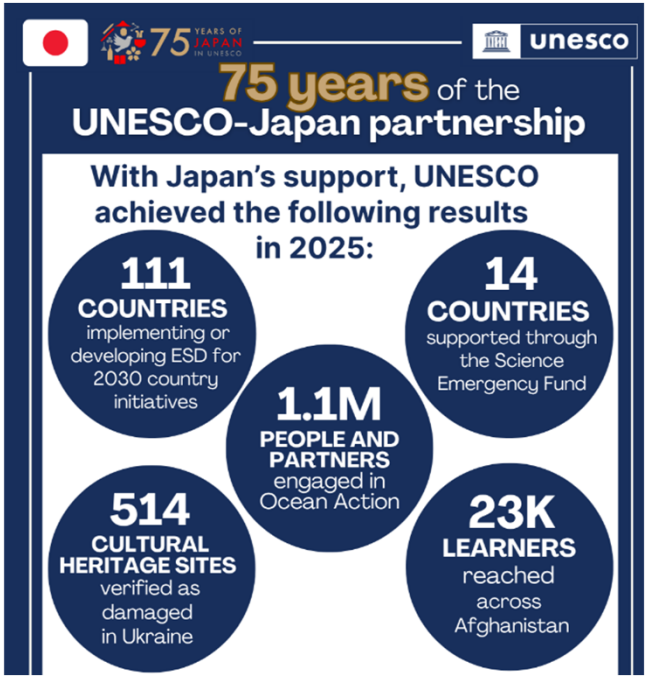
2．日本政府ユネスコ信託基金レビュー会合

結果概要

- 2026年５月29日にパリのユネスコ本部で開催された。
- 文部科学省では、ユネスコに対し、教育、科学、文化、情報コミュニケーション分野への拠出金を通じた財政支援・人的貢献を長年実施している。
- エルアナーニー事務局長ほかユネスコ各局の幹部が出席し、ユネスコの各分野の取組の更なる活性化に向けて、今後の拠出金事業が効果的・効率的に実施されるよう意見交換を行った。
- ユネスコでは、これまでの信託基金等を通じた日本政府のユネスコ事業への貢献に感謝を示し、その成果を紹介するため、日本のユネスコ加盟日である７月２日を「ジャパン・ビジビリティ・デイ」とし、特設サイトの開設やSNSによる発信等を行った。



（上）ユネスコ本部での会合の様子





（右）「ジャパン・ビジビリティ・デイ」におけるユネスコ作成の広報資料

３．ユネスコにおける今後の動向

主な国際会議

日程	案件	場所
2026年９月28日	• 第33回国際生命倫理委員会(IBC)会合 • 国際生命倫理委員会（IBC）・政府間生命倫理委員会（IGBC）合同会合 • 第14回科学的知識と技術の倫理に関する世界委員会(COMEST)臨時会合	パリ（フランス）
10月５日～20日	• 第225回ユネスコ執行委員会	パリ（フランス）
10月28日～29日	• ポスト2030年教育に関するユース・アジェンダ起草会議	東京（日本）
11月30日～12月５日	• 第21回無形文化遺産保護条約政府間委員会	厦門（中国）
2027年１月13日～15日	• ESDに関するユネスコ世界会議	ナイロビ（ケニア）
３月31日～４月２日	• グローバル教育会合	バンコク（タイ）